

平成 24 年度 中南米日系農業者連携交流委託事業
第 4 回日系農協等連絡会議 概要

日時：2013 年 2 月 21 日（木）9:00-18:00

会場：サンパウロ市内ニッケイパレスホテル会議室

通訳：日本語-ポルトガル語同時通訳

参加者：ブラジル、パラグアイ、ボリビア、アルゼンチン各国日系農業者・農協等代表者 64 名

内容：本事業の活動報告および研修生報告、本年度事業の反省と今後の展開について

<要旨>

【事業実施に対する評価】

- PMC(プロジェクト運営委員会) の意見を事業主体に取り上げてもらっていることがこの事業の成功のキーポイントである
- 南米日系農協内での横の連携を取っていききたい
- 今回の会議のような、交流・研究の成果の報告発表は日系農協間の連携と発展に寄与する
- 次世代の人材育成、日本の様々な公的機関・研究機関などとのコンタクトを通じて、連携を強化し、この事業を発展させていきたい

【ビジネスへの発展】

- 日本への輸出は単に輸送距離の問題だけではないため、日本の農協・生協と南米農協との間でのビジネスは可能ではないか
- 士幌農協では新たな供給先を求めて南米各地を訪問し、ブラジル側は買い手が来るのを待っている状態である。日本の農協と南米日系農協の間でベーシックな物の取引を始める可能性があるのではないか。
- 研修成果を活かすためにも、適正価格で日本へ良質な食料及び原料の輸出をしていきたい

【研修についての意見】

- 農業の専門的知識を得るものではないが、多分野の知識を得る研修も有意義である
- 長い目で見た地域への貢献などを考えると、目的別の専門的な技術研修がよい
- 大豆に関する研修を今後も継続してもらいたい
- 今後は自費でも研修に参加したいという意欲もあり、研修先とのネットワークの構築に継続して取り組んでももらいたい
- 研修生同士で意見交換をすることで、より知識を深めることができる
- ブラジルやアルゼンチンなど南米内での大豆栽培・土壌物理の技術指導を継続してもらいたい
- 女性は文化の継承と地域の活性化に大きな役割を担っているおり、情報交換・文化交流のため、今回のふるさと交流のような事業を続けることが重要
- 自分たちの地元で生産される農産物を利用して新しいものを作るといふことの必要性と重要性を実感した